

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会  
令和3年度 監査結果報告書

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会規則に基づき監査を実施し、以下を報告する。

1. 監査の方法

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会は、説明聴取と資料により監査を実施した。

2. 実施日

1) 第1回監査：令和3年6月30日（水）16：00～17：00

2) 第2回監査：令和4年3月14日（月）～3月31日（木）

オンデマンド方式による報告とメール審議

3. 監査結果

1) 第1回監査

(1) 令和3年度安全管理体制について

資料に基づき説明を受け、確認をした。特に医療法施行規則に基づき今年度は病院機能評価受審が予定されており、受審に向けた病院の取り組みについて確認を行った。

今年度は「医療安全の構築」を目標とし、より一層医療安全に対して組織的にも機能的にも実効性のある体制を構築していくこと確認した。

(2) 令和元年度インシデントレポート集計結果報告

資料に基づき説明を受け、確認をした。インシデント報告件数は、令和2年度と比較しやや減少していた。また、レベル0の報告数が減少していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、患者数は減少したものの、病棟再編成等により業務負担が増え、職員の余裕がない状況が一つの要因として考えられるとの説明があった。

(3) 令和元年度の外部監査委員会指摘事項と改善状況の報告

資料に基づき説明を受け、以下の①、②を確認した。

①「入退院支援センター」開設後の活動

②臨床工学技士（ME）の人員配置と増員要求の継続について

(4) その他

医療事故調査・支援センターへの報告を実施した事例について報告を受けた。事故調査委員会において提言された再発防止策とそれに対する防衛医科大学校病院の取り組みについて確認を行った。

## 2) 第2回監査

新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言下であることを鑑み、防衛医科大学校病院に導入されているeラーニングシステム「Safety Plus」を利用したオンデマンド方式で監査を実施した。

### (1) 病院機能評価について

令和3年1月受審予定の病院機能評価・一般病院3の内容について資料に基づき説明を受け、確認をした。次回以降の監査委員会において受審結果の確認及び指摘事項への対応を確認するものとした。

### (2) 入退院センターの運用状況について

資料に基づき説明を受け、入退院支援センターの実績が増加していること、運用状況、業務の内容、患者の流れがシステムに基づき実施されており、多職種との連携システムが構築されていることが確認出来た。質の改善に向け、実際に行われた内容、アウトカムの結果から課題が明確になっており、PDCAを用いて改善策のサイクルを回しているのが示されており、円滑な運用が行われていることを確認した。

### (3) MEセンターについて

MEセンターの運用状況について臨床工学技士より資料に沿って説明が実施された。保守、点検のための管理を中央化し、システムが構築されていることが示されており以前からの問題、課題を明確にし、少数の職員で、現場の1人ひとりが質と患者の安全に向けてシステムの改善に取り組んでいることが分かった。一元管理がなされることで、適切な管理にもつながっていると考えられた。

他方以前から指摘している様に、未だ他病院に比較し人数が少ない状況に変わりはなく、また、現状の10名では当直体制をとれる人数ではないため、大学病院の医療機器管理体制として十分ではないこと、中央管理に向けた体制の大元が整備されたため、今後も引き続きまだ管理出来ていない多数の医療機器の一元管理に向けて、定員増の要求を引き続き実施して行く必要を改めて確認した。

## 5. 総括

令和3年度医療安全管理体制につきましては前年度の「安全文化の醸成」から「安全文化の構築」への変化を掲げ、一歩進んだ方向性が示された。

全体を通しては、病院の社会的役割や現在行われている業務を鑑みると恒常的に人員が不足しており、現在も職員にかなりの負担がかかっている。今後もこのような状況が続くことで、医療安全に影響を及ぼすことが懸念される。会計面で特殊な環境にあるが、関係各署の理解を求め必要な人員を確保し、病院の医療安全と業務が充実することに期待する。今後も不断の努力により安全・安心を高い次元で保ちつつ、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院として地域医療に貢献することを希望する。